直説法現在の動詞形における アスペクト記号素の不在

川　島　浩一郎*

0．はじめに

いわゆる直説法現在の動詞形には，そこにどのような記号素の実現形が含まれているのかという論点がある．直説法現在形には法記号素の実現形が含まれているのだろうか．時制記号素の実現形は，そこに含まれているのだろうか[1].

（1）Je *cherche* un moyen de te remercier, [...], et je ne le trouve pas. (Fred Vargas, *Sous les vents de Neptune*, Collection J'ai lu, 2004, p.428)

（2）Dix minutes plus tard, ils *sortent* tous les deux du magasin. (Nicole de Buron, *Vas-y maman*, Collection J'ai lu, 1978, p.84)

（3）On se *dépêche* toujours le jeudi. (Fred Vargas, *Sans feu ni lieu*, Collection J'ai lu, 1997, p.102)

（4）Je hais les jeunes gens depuis que je *possède* Anita. (Sébastien Japrisot, *La dame dans l'auto avec des lunettes et un fusil*, Collection Folio, 1966, p.260)

---

* 福岡大学人文学部教授

[1] 直説法現在の動詞形には，法記号素の実現形も時制記号素の実現形も含まれないと考えられる．詳細については川島（2005），川島（2013），川島（2015a）を参照.

直説法現在の動詞形は，アスペクト的な側面において多様な解釈を許容する．たとえば（1）の cherche のように，直説法現在形は展開中の事態を表現することがある．逆に（2）の sortent のように，直説法現在形が完了した事態に対応することもある．（3）の dépêche のように事態の反復に対応することもあれば，（4）の possède のように事態の開始に対応することもある．

本稿では，直説法現在の動詞形にアスペクト記号素の実現形は含まれていないことを示す．何らかのアスペクトを表示するための記号素をアスペクト記号素と呼ぶ．直説法現在形がアスペクト的に多様な解釈をもちうるのは，そこに，特定のアスペクト記号素の実現形が含まれていないからにほかならない．直説法現在は，何らかのアスペクトを積極的に表示するための動詞形ではない．

（5）Et il *gît* quelque part au bord de la route.（Internet）

（6）C'est pourquoi nous sommes d'avis, qu'il *sied* maintenant de préparer le projet de loi et de le proposer à la Chambre.（Internet）

この論証においては，複合過去記号素と共起しない動詞記号素の存在を利用する．たとえば（5）の gît や（6）の sied に含まれる動詞記号素は，複合過去記号素つまり完了アスペクト記号素と共起できない．アスペクト記号素（たとえば完了アスペクト記号素）と共起できない動詞記号素は，他のアスペクト記号素とも共起しない．この事実を利用することによって，直説法現在の動詞形にアスペクト記号素の実現形が含まれえないことを論証することができる．

1．事実と概念，用語の確認

1.1. 表意単位の実現形であることの必要条件

発話のある切片が表意単位の実現形であるためには，少なくとも次の 2 条件がみたされることが必要である．条件（a）発話の一部分において，その切片を他の切片（ゼロ切片でもよい）と入れ換えることができる．条件（b）この

入れ換えによって，知的意味にもとづいた弁別が発話に生じる．知的意味という用語は，大略，言語共同体において共有される客観的，離散的な弁別にもとづく意味のことを指す．たとえば（7）および（8）では，moche と bizarre を入れ換えることができる．つまり moche と bizarre が条件（a）をみたす．また moche と bizarre の入れ換えによって，（7）や（8）の意味に客観的，離散的な弁別が生じる．つまり moche と bizarre が条件(b)をみたす．したがって moche と bizarre はそれぞれ，少なくとも（7）や（8）において，表意単位の実現形として認定されるための必要条件をみたしていると考えてよい．

（7）C'est *moche* !（*Elle*, 11 avril 2005, p.76）

（8） C'est *bizarre* !（Martine Dugowson, *Mina Tannenbaum*, Collection Le Livre de Poche, 1994, p.17）

最小の表意単位は，記号素と呼ばれる．記号素は，それ以上小さな表意単位に分節することができない表意単位である．つまり記号素の実現形の内部において上記の基準をみたす切片は，その記号素の実現形の全体だけである．たとえば（7）の moche の内部にあって条件（a）と条件（b）をみたす切片は，この moche の全体だけである．よって（7）の moche は記号素（つまり最小の表意単位）の実現形としての必要条件をみたすと言ってよい．

（9）[...] : les hommes et les femmes, c'est pareil ou c'est *pas* pareil ?（Tonino Benacquista, *Malavita encore*, Collection Folio, 2008, p.347）

入れ換えの可能性が検証の対象となる切片には，いわゆる「ゼロ切片」も含まれる．ゼロ切片という用語は，切片が不在の状態を指す．たとえば（9）の c'est pareil と c'est pas pareil にみられるように，c'est pas pareil の pas はゼロ切片と入れ換えることができる．この入れ換えは c'est pareil と c'est pas pareil に，知的意味にもとづいた弁別を生じさせる．この観察によって，c'est pas pareil の pas は表意単位の実現形としての必要条件をみたすと考えることができる．

条件（a）と条件（b）に依拠しないかぎり，発話の任意の切片が表意単位

の実現形であるのかそうでないのかを明確に判定する手段はない．条件（a）に反して，かりに（7）の est および moche を（ゼロ切片も含めて）他の切片と入れ換えることができないと仮定しよう．この仮定によれば，これらの est と moche は一体化して分離不可能である．つまり（7）において，est と moche はいずれも記号素（最小の表意単位）の実現形の一部分に過ぎないことになる．また条件（b）に反し，（7）の moche を他の切片と入れ換えることはできるが，この入れ換えによって（7）に知的意味にもとづいた弁別は生じないと仮定しよう．この仮定のもとでの moche を，表意単位の実現形と言うことはできない．どのような実現形を用いても（たとえば moche であろうが bizarre であろうが bien であろうが）発話に知的意味にもとづいた弁別が生じない文脈がもしあるとすれば，それは表意機能が働きえない文脈であると考えざるをえない．以上の考察により，少なくとも条件（a）と条件（b）をみたさない切片については，それを表意単位の実現形とみなすことはできないと言ってよい．

1. 2. 相互排除と記号素のクラス

複数の記号素について，それらが同一の記号素クラスに属すると言うためには，少なくとも次の 2 条件がみたされることが必要である．条件（c）当該の記号素の実現形が，同一の分布に現れうる．条件（d）等位関係にないかぎり，当該の記号素の実現形が相互排除の関係にある．なお記号素という用語は，最小の表意単位を意味する（1. 1. を参照）．たとえば（10）と（11）にみられるように，deux と trois はどちらも，il est ... heures de l'apès-midi という分布に現れることができる．そして deux と trois が同一の分布で共起しうるのは，（12）における deux et trois のように，これらが等位関係にある場合にかぎられる．等位関係にないかぎり, deux と trois はこの分布において相互に排除し，どちらか一方しか現れることができない．したがって deux と trois を実現形

とする記号素は，少なくともil est ... heures de l'apès-midiという分布において，同一の記号素クラス（数詞クラス）に所属すると言ってよい．

（10）Il est *deux* heures de l'après-midi.（Guillaume Musso, *Parce que je t'aime*, Collection Pocket, 2007, p.241）

（11）Mais il est *trois* heures de l'après-midi.（Amélie Nothomb, *Les Combustibles*, Collection Le Livre de Poche, 2002, p.38）

（12）Ils ont *deux* et *trois* ans !（Nicole de Buron, *Chéri, tu m'écoutes ?... alors répète ce que je viens de dire...*, Collection Pocket, 1998, p.174）

これらの２条件をみたさない複数の記号素は，同一の記号素クラスに所属しないと考えてよい．たとえば（10）において，il と deux は相互排除せず，共起している．また等位関係にもない．つまり，上記の条件（d）をみたさない．よって（10）においてil と deux を実現形とする記号素は，同一のクラスの構成員ではないことになる．そもそも，上記の２条件をみたさない複数の記号素を，同一クラスの構成員であると考えなければならない理由はとくにないと思われる．

1.3. 完了アスペクト記号素とアスペクトクラス

1.3.1. 完了アスペクト記号素

複合過去の動詞形には，複合過去記号素の実現形が含まれる．たとえば（13）の sors と（14）の suis sorti を比べれば，sors にはない表意単位の実現形が suis sorti に含まれていることは明らかである．複合過去の動詞形を特徴づけるこの切片は，表意単位の実現形としての必要条件をみたす（1.1.を参照）．つまり複合過去の動詞形を特徴づける切片は，（13）の sors と（14）の suis sorti にみられるように，他の切片（ゼロ切片でもよい）と入れ換えることができる．また，その入れ換えによって発話に知的意味にもとづいた弁別が生じる．この切片はまた，記号素の実現形と考えられる．複合過去の動詞形を特徴

づける最小の切片だからである．

（13）［…］: quand je *sors*, je bois.（Cécile Krug, *Demain matin si tout va bien*, Collection J'ai lu, 2004, p.14）

（14）Je *suis sorti*.（Sébastien Japrisot, *La dame dans l'auto avec des lunettes et un fusil*, Collection Folio, 1966, p.290）

複合過去記号素は，完了アスペクト記号素である．たとえば（14）の suis sorti における複合過去記号素の実現形は，この事態が完了していることを明示する．実際 suis sorti という動詞形によって表現された事態を，未完了の事態として解釈することはできない．複合過去記号素は，事態の完了を明示することに特化した完了アスペクト記号素であると言ってよい．

（15）Il y a quarante ans, un étudiant *a disparu*.（Marc Levy, *La prochaine fois*, Collection Pocket, 2004, p.202）

（16）Fred *a disparu* depuis trois jours, […].（Tonino Benacquista, *Saga*, Collection Folio, 1997, p.109）

（17）Nous *sommes* bientôt *arrivés* à la maison. Plus que quelques rues.（Agnès Abécassis, *Au secours, il veut m'épouser !*, Collection Le Livre de Poche, 2007, p.56）

（18）Quand j'*ai vécu* une catastrophe, je fais tout pour l'oublier.（Sylvie Testud, *Le Ciel t'aidera*, Collection Le Livre de Poche, 2005, p.47）

複合過去記号素は，過去時制記号素ではない．完了アスペクト記号素である．実際，複合過去記号素は，それが表現する事態の時間的な位置づけを特定する表意機能をもっていない．たとえば（15）において a disparu で表された事態の成立は，過去時間に位置づけられている．（16）の a disparu は，現在時間に位置づけられている．（17）において sommes … arrivés によって表される事態は，未来時間に位置づけられている．（18）において ai vécu で表された事態の成立は，過去時間，現在時間，未来時間のいずれにも特定されない．こ

のように，複合過去記号素の使用は時間的な位置づけによる制約を受けない．

1. 3. 2. アスペクトクラスに属する記号素：アスペクト記号素

複合過去記号素は，アスペクトクラスに属する記号素である．複合過去記号素は，時制記号素ではなく，完了アスペクト記号素だからである（1. 3. 1. を参照）．アスペクトクラスに属する記号素を，アスペクト記号素と呼ぶ．

ある記号素について，それがアスペクトクラスに属すると言うためには，その記号素が少なくとも次の 2 条件をみたすことが必要である．条件（e）その記号素の実現形が，他のアスペクト記号素（たとえば完了アスペクト記号素）の実現形と同一の分布に現れうる．条件（f）等位関係にないかぎり，その記号素の実現形が，他のアスペクト記号素（たとえば完了アスペクト記号素）の実現形と相互排除の関係にある．この 2 条件をみたさない記号素は，アスペクトクラスに所属する記号素ではない（1. 2. を参照）．この 2 条件は，記号素がアスペクト記号素として認定されるための必要条件であると考えてよい．

1. 4. 同一の人称および数を備えた直説法現在の動詞形の相違

同一の人称および数を備えた直説法現在の複数の動詞形において，相互に入れ換えができる切片は，動詞記号素の実現形だけである．たとえば（19）の aimez と（20）の fumez は，同じ人称と数を備えた直説法現在の動詞形である．この aimez と fumez において相互に入れ換えることができるのは，これらの動詞形に含まれる動詞記号素の実現形だけである．同様に（21）の paye と（22）の paie の間で相互に入れ換えが可能な切片は，これらの動詞形に含まれる（同一の）動詞記号素の実現形しかない．

（19）Vous *aimez* ?（Amélie Nothomb, *Ni d'Ève ni d'Adam*, Collection Le Livre de Poche, 2007, p.32）

（20）Vous *fumez* ?（Brigitte Aubert, *Transfixions*, Collection Points,

1998, p.193）

（21）Je *paye* le vin, [...]. (Philippe Djian, *37°2 le matin*, Collection J'ai lu, 1985, p.205）

（22）Je te *paie* un verre ? (Fred Vargas, *Pars vite et reviens tard*, Collection J'ai lu, 2001, p.11）

よって，同一の人称および数を備えた直説法現在の動詞形の相違は，そこに含まれる動詞記号素の実現形の違いに帰着する．同一の人称および数を共有する直説法現在の動詞形であるかぎり，そこにある動詞形の相違は，動詞形に含まれる動詞記号素の実現形の違いでしかない．たとえば（19）の aimez と（20）の fumez は，同一の人称および数を備えた直説法現在の動詞形である．これらの動詞形の相違は，そこに含まれる動詞記号素（あるいは動詞記号素の実現形）の違いだけに由来する[2].

2．直説法現在の動詞形におけるアスペクト記号素の不在

2. 1. 複合過去記号素と共起できる動詞記号素と共起できない動詞記号素

2. 1. 1. 完了アスペクト記号素と共起できる動詞記号素

動詞記号素のなかには，複合過去記号素と共起できるものがある．これらの動詞記号素は，複合過去の動詞形をもつ．たとえば（23）の tape に含まれる動詞記号素は，複合過去形である（24）の a tapé にみられるように，複合過去記号素と共起しうる．

（23）Il *tape* à la machine depuis dix-huit heures. (Thierry Jonquet, *Comedia*, Collection Folio, 2005, p.171）

（24）Il *a tapé* à la machine toute la nuit. (Thierry Jonquet, *Comedia*,

[2] 本稿では記述の煩雑を避けるため，必要がないかぎりは，動詞記号素と「動詞記号素の実現形」を必ずしも区別して表記しない．

Collection Folio, 2005, p.183）

複合過去記号素と共起できる動詞記号素は，完了アスペクト記号素と共起することができる．複合過去記号素は完了アスペクト記号素だからである（1. 3. を参照）．たとえば（23）の tape に含まれる動詞記号素は，（24）の a tapé にみられるように，完了アスペクト記号素と共起が可能である．

2. 1. 2. 完了アスペクト記号素と共起できない動詞記号素

動詞記号素のなかには，複合過去記号素と共起できないものがある．Gésir, seoir，messeoir，paître に含まれる動詞記号素は，複合過去記号素と共起することができない．これらの動詞記号素は，少なくとも規範に従うかぎり，複合過去の動詞形をもたないのである．

（25）Un instant, il *gît* comme un mort.（Internet）

（26）En outre, il *sied* de rappeler que le pays a un régime juridique moniste.（Internet）

複合過去記号素と共起できない動詞記号素は，完了アスペクト記号素と共起することができない．複合過去記号素は完了アスペクト記号素だからである（1. 3. を参照）．たとえば（25）の gît や（26）の sied に含まれる動詞記号素は，完了アスペクト記号素と共起しえないと言ってよい．これらの動詞記号素は，複合過去の動詞形をもたないからである．

2. 2. 直説法現在の動詞形とアスペクト記号素の不在

2. 2. 1. アスペクト記号素と共起できる動詞記号素

動詞記号素のなかには，完了アスペクト記号素と共起できるものがある．これらの動詞記号素は，複合過去の動詞形をもつ．たとえば（27）の cherche に含まれる動詞記号素は，（28）の a cherché にみられるように，完了アスペクト記号素との共起が可能である．

(27) On te *cherche* partout. (Sébastien Japrisot, *L'été meurtrier*, Collection Folio, 1977, p.358)

(28) On t'*a cherché* partout. (Agnès Abécassis, *Chouette, une ride !*, Collection Le Livre de Poche, 2009, p.203)

完了アスペクト記号素と共起することができる動詞記号素は，アスペクト記号素と共起することができる．完了アスペクト記号素は，アスペクト記号素だからである(2.1.1.を参照)．完了アスペクト記号素と共起できる動詞記号素は，少なくとも，事態の完了を表示するアスペクト記号素と共起することができる．

2.2.2. アスペクト記号素と共起できない動詞記号素

完了アスペクト記号素と共起できない動詞記号素（gésir，seoir，messeoir，paître に含まれる動詞記号素）がある．たとえば（29）の gît や（30）の sied に含まれる動詞記号素は，完了アスペクト記号素と共起しない．これらの動詞記号素は，複合過去の動詞形をもたないからである（2.1.2.を参照）．

(29) L'amant d'Isolde est mort, il *gît* à ses pieds. (Internet)

(30) Il *sied* donc que la chronique d'un lieu aussi invraisemblable commence par un mystère. (Internet)

完了アスペクト記号素と共起できない動詞記号素は，他のアスペクト記号素とも共起することができない．ある記号素について，それがアスペクトクラスに属すると言うためには，その記号素が少なくとも次の2条件をみたすことが必要である（1.3.2.を参照）．条件（e）その記号素の実現形が，他のアスペクト記号素（たとえば完了アスペクト記号素）の実現形と同一の分布に現れうる．条件（f）等位関係にないかぎり，その記号素の実現形が，他のアスペクト記号素（たとえば完了アスペクト記号素）の実現形と相互排除の関係にある．たとえば（29）の gît には，これらの2条件をみたすような記号素の実現形は含まれない．この gît に含まれる記号素の実現形はいずれも，完了アスペクト記

号素の実現形と同一の分布に現れることがない．完了アスペクト記号素の実現形と，相互排除の関係をもつこともありえない．（29）の gît に含まれる動詞記号素は，完了アスペクト記号素との共起ができないからである（2. 1. 2. を参照）．

2. 3. アスペクト記号素不在の論証

同一の人称および数を備えた直説法現在の動詞形の相違は，そこに含まれる動詞記号素の実現形の違いに帰着する．たとえば（31）の gît と（32）の travaille は，同一の人称および数を備えた直説法現在の動詞形である．これらの動詞形の相違は，そこに含まれる動詞記号素（あるいは動詞記号素の実現形）の違いだけに由来する（1. 4. を参照）．

（31）Maintenant, il *gît* dans sa tombe.（Internet）

（32）Il *travaille* avec moi, [...].（Tonino Benacquista, *Quelqu'un d'autre*, Collection Folio, 2002, p.176）

（33）Il n'*a* jamais *travaillé*.（Patrice Leconte, *Les Femmes aux cheveux courts*, Collection Le Livre de Poche, 2009, p.37）

完了アスペクト記号素と共起できる動詞記号素を含む任意の直説法現在形に，何らかのアスペクト記号素が含まれていると仮定してみよう．完了アスペクト記号素と共起できる動詞記号素は，確かに，何らかのアスペクト記号素と共起する可能性がある（2. 2. 1. を参照）．たとえば（32）の travaille に含まれる動詞記号素は，（33）の a ... travaillé にみられるように，完了アスペクト記号素と共起が可能である．すでに分析したように，（31）の gît にアスペクト記号素は含まれない（2. 2. 2. を参照）．これに対して（32）の travaille という動詞形には，何らかのアスペクト記号素の実現形が含まれていると仮定する．

この仮定は，明らかに間違っている．上で述べたように（31）の gît と（32）の travaille の動詞形の相違は，そこに含まれる動詞記号素の違いだけに由来

する．これらは同一の人称および数を備えた直説法現在の動詞形である．よって（31）の gît と（32）の travaille にみられる動詞形の相違に，アスペクト記号素の有無は関与していないことになる．（31）の gît にアスペクト記号素は含まれないのであるから，（32）の travaille の場合も同様に，そこにアスペクト記号素は含まれないはずである．

以上の考察により，直説法現在の任意の動詞形には，アスペクト記号素の実現形は含まれないと考えざるをえない．（31）の gît のような，完了アスペクト記号素と共起できない動詞記号素（gésir，seoir，messeoir，paître に含まれる動詞記号素）を含む直説法現在の任意の動詞形に，アスペクト記号素の実現形は含まれない．また（32）の travaille のような，完了アスペクト記号素と共起可能な動詞記号素を含む直説法現在の任意の動詞形にも，アスペクト記号素の実現形は含まれない．

2. 4. 直説法現在の動詞形のアスペクト的な解釈

直説法現在の動詞形には，多様なアスペクト的解釈が可能である．たとえば（34）の ai や（35）の arrivez は, 完了した事態の表現として解釈できる．（35）の sors は完了したばかりの事態を表現している．（36）の mange では，この事態の開始点が表現されている．（37）の sort においては，事態の反復が表現されている．（38）の rêve や（39）の espacent は継続中，展開中の事態の表現として解釈できる．（40）の marchent は，この事態の全体性（事態を構成するプロセスの全体）の表現として解釈することができる．

（34）Soudain, j'*ai* très peur.（Guillaume Musso, *Je reviens te chercher*, Collection Pocket, 2008, p.336）

（35）Vous *arrivez* trop tard, la réunion vient de se terminer, j'en *sors* à l'instant.（Marc Levy, *Mes amis Mes amours*, Collection Pocket, 2006, p.90）

（36）On *mange* dans dix minutes !（Philippe Djian, *37°2 le matin*, Collection J'ai lu, 1985, p.50）

（37）Ici, on *sort* les poubelles une fois par semaine, le mardi soir.（Fred Vargas, *Un peu plus loin sur la droite*, Collection J'ai lu, 1996, p.151）

（38）Je *rêve*, je suis en train de rêver, […].（D. Bretin et al., *Sable Noir*, Collection J'ai lu, 2006, p.160）

（39）Alors, peu à peu, les lettres de Gabrielle s'*espacent* jusqu'à se faire inexistantes.（Guillaume Musso, *Que serais-je sans toi ?*, Collection Pocket, 2009, p.27）

（40）Je marchais comme *marchent* les adultes.（Sylvie Testud, *Le Ciel t'aidera*, Collection Le Livre de Poche, 2005, p.12）

直説法現在形に対するアスペクト的解釈が多様であるのは，直説法現在の動詞形に，特定のアスペクト記号素の実現形が含まれていないからだと考えられる．特定のアスペクトを表示しないからこそ，アスペクト的側面に解釈の多様性が生じる．たとえば，直説法現在形にもし未完了アスペクト記号素の実現形が含まれていたならば，直説法現在形によって表現された事態は未完了の事態としてしか解釈ができないことになってしまう．直説法現在は，アスペクト的な弁別をもたない動詞形だと言ってよい．

3．まとめ

直説法現在の任意の動詞形には，アスペクト記号素の実現形は含まれない．完了アスペクト記号素と共起できない動詞記号素（gésir，seoir，messeoir，paître に含まれる動詞記号素）を含む直説法現在の任意の動詞形に，アスペクト記号素の実現形は含まれない．また完了アスペクト記号素と共起可能な動詞記号素を含む直説法現在の任意の動詞形にも，アスペクト記号素の実現形は含

まれない.

(41) Tout d'un coup, j'*ai* 16 ans. (Frédéric Beigbeder, *L'amour dure trois ans*, Collection Folio, 1997, p.110)

(42) Vous êtes là... Je vous *cherche* partout...! (Philippe Djian, *37°2 le matin*, Collection J'ai lu, 1985, p.6)

(43) Nous *rentrons* de vacances à l'instant. (Sylvie Testud, *Gamines*, Collection Le Livre de Poche, 2006, p.136)

(44) Oh là là, déjà midi, j'*ai* un tennis dans un quart d'heure ! (Brigitte Aubert, *Funérarium*, Collection Points, 2002, p.205)

(45) Souvent, elle se *sent* seule. (Guillaume Musso, *Parce que je t'aime*, Collection Pocket, 2007, p.108)

(46) Qu'est-ce que tu *fais* là tout seul au lieu d'aller jouer avec les autres ? (Marc Levy, *Le voleur d'ombres*, Collection Pocket, 2010, p.83)

(47) Chaque jour, [...] , je *meurs* un peu. (Dennis Etchison, *Rêves de sang*, Collection Le Cabinet noir, 1998, p.13)

(48) McGarth avait l'index levé, tel un élève timide qui *demande* la parole. (Maxime Chattam, *In tenebris*, Collection Pocket, 2002, p.331)

直説法現在の動詞形には, 多様なアスペクト的解釈がありうる. たとえば(41)の ai や (42) の cherche は完了した事態の表現として解釈できる. (43) の rentrons は完了したばかりの事態を表現している. (44) の ai では, この事態の開始が表現されている. (45) の sent は, 事態の反復に対応している. (46) の fais や (47) の meurs は継続中, 展開中の事態の表現として解釈できる. (48) の demande は, この事態の全体性 (事態を構成するプロセスの全体) の表現として解釈できる.

直説法現在形がアスペクト的に多様な解釈をもちうるのは，直説法現在の動詞形に，特定のアスペクト記号素の実現形が含まれていないからにほかならない．直説法現在は，何らかのアスペクトを積極的に表示するための動詞形ではない．特定のアスペクトを表示しないからこそ，アスペクト的側面に解釈の多様性が生じる．直説法現在は，アスペクト的な弁別をもたない動詞形だと言ってよい．

参考文献

川島浩一郎（2005）「フランス語の「現在形」をめぐる一考察」『福岡大学研究部論集』第 5 巻第 1 号 A : 人文科学編，13 – 28.

川島浩一郎（2013）「直説法記号素の不在とその非経験的論証」『福岡大学人文論叢』第 45 巻第 3 号，269 – 290.

川島浩一郎（2014）「複合過去と単純過去の対立の中和」『ふらんぽー』第 39 号，東京外国語大学フランス語研究室，45 – 65.

川島浩一郎（2015a）「いわゆる直説法三人称単数現在の動詞形 — 時制、アスペクト、法、態、人称、数の不在 —」『ふらんぽー』第 40 号，東京外国語大学フランス語研究室，57 – 75.

川島浩一郎（2015b）「完了アスペクトとフランス語教育 — 初級教科書における複合過去形 —」『福岡大学言語教育研究センター紀要』第 14 号，61 – 69.

川島浩一郎（2016a）「過去時制記号素との共起における複合過去記号素と単純過去記号素の対立の中和 — ディスクールとイストワールの弁別と大過去形 —」『福岡大学人文論叢』第 48 巻第 1 号，133 – 152.

川島浩一郎（2016b）「単純過去記号素との共起における完了アスペクト記号素の対立の中和 —「ディスクール」と「イストワール」の弁別の外側にある原完了アスペクト記号素 —」『福岡大学人文論叢』第 48 巻第 2 号，493 – 512.

川島浩一郎（2017）「複合過去および半過去における点的解釈と線的解釈」『福岡大学教職課程教育センター紀要』創刊号，33 – 44.

MARTINET, André (1979), *Grammaire fonctionnelle du français*, Didier.

渡瀬嘉朗（2012）『統辞理論の周辺』三修社.